

### 香山剛神父

最近よく思うのは、信仰するしないにかかわらず人間の条件は変わらないのではないかと言うことです。その中でも年齢による老化などは誰も避けることが出来ません。数年前、三十代の若手司祭に第三の臓器である「歯」は大事にしたほうがいと進めても年齢を重ねないと分からないのかぴんと来ないようでした。ところで、いま日本社会では高齢者の介護が大きな問題になりつつあるようです。中でも認知症の家族を抱える人たちの悲鳴が新聞やテレビのニュースを通して伝わってくるが増えています。

そこで一例として、信者の家庭で高齢になった母親と同居している娘さんから伺った話ですが、時を問わず突然目の前にいる彼女に対して母親から「どちら様でしょうか？」と尋ねられ「お母さん、私でしょ！」と答えねばならないもどかしさや、毎食後に赤ちゃんのようにおなかをさすって空気を出してあげることや、さらに寝る前にパジャマに着替えてもらおうとすると嫌がって着替えてくれないのでへとへとになって仕舞うことなどを語ってくれました。ある日曜日のミサ後、その母親に「グッド モーニング！」と私があいさつすると同じく「グッド モーニング！」と返してくれたので「英語が上手ですね。」とほめた時さらに「サンキュウ！」と帰ってきたのです。これには驚かされたといえ失礼になりますが、人は好んでやってきたことは意外と忘れはしないらしいのです。

先日、新聞を見ていると「笑って ほめて 認知症介護」という太字の見出しが目に留まりました。「笑うこと、ほめること、触れ合うこと―。俳優の砂川啓介さん(79)は、認知症の妻、大山信代さん(82)を介護する中で『よかったのでは』と思えたことを、日々実践するように心がけている。」とのことでした。妻がアルツハイマー型認知症と2012年に判明してから一人で他人に知られることなく「彼女のために一生懸命すればするほど、こっちがおかしくなってくる。」「介護することになり、それを一人で背負ってしまったことは自分の中で反省点。」他方、自身の高齢になって尿管がんのため入退院を繰り返す日々であることも明らかになりました。

さらに砂川さんと専門家の医師との対談から幾つか引用してみましょう。

「計算ドリルや脳トレなどがよく推奨されるが、残念ながら一定期間の効果。やめると元に戻る。**好きなものを続けることが一番大事。**」

「認知症には記憶の障害以外にやっかいな症状があります。例えば精神症状があると怒りやすくなる。ただ認知症の人が険しい表情だと、介護者も険しい表情をしていることが多い。一方が笑うと相手も笑顔になります。」

「**介護から離れた時間を作るのはいいことです。**介護を受ける本人にもいい効果が出る。(普段と違う)ほかの人が接していると、それが脳の刺激になるのです。」

最後に、「砂川さんが心がけていること」も参考になるのではないのでしょうか。

- 好きな曲をかけ、歌ってみる
- ハグや手を握って、触れ合う
- 容姿をほめる
- 薬の量を減らす
- 髪型を変えるなどオシャレをさせてみる
- 笑顔を忘れず、積極的に笑わせるようにする
- 家族が介護以外の時間も作り、リフレッシュする

著書『娘になった妻、信代へ』から抜粋

主イエスは、最後の晩餐の中で「あなたがたに新しい掟を与える。互いに愛し合いなさい。」（ヨハネ13, 34）と述べておられます。互いに愛すること、つまりイエスの愛を宣教するということは一方的なものではなく社会から学ぶことも含まれていると思えるのですが。